

COVAXファシリティ【195.8億円】

- COVAXの「途上国向け枠組み(AMC)」への拠出(拠出先は事務局機能を務めるGaviワクチンアライアンス)を通じ、特に途上国で引き続きニーズのある新型コロナワクチン接種を速やかに推進することで、新型コロナの継続的対策と経済・社会活動の再活性化に貢献するとともに、変異株の発生や海外からの流入も防ぐもの。

Gaviワクチンアライアンス【20.55億円】

- Gaviが支援する定期予防接種(現在麻疹等の18種類の感染症に対応)は、世界中で防ぎ得る乳幼児死亡数を減少させ、効果的・効率的に感染症の予防を実現するもの。Gaviへの拠出を通じて、Gaviによる予防接種事業の継続・改善を支援し、人間の安全保障の具現化や、我が国がこれまで主導してきているユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成に向けて国際社会をリードするとともに、我が国への流入予防を含め、パンデミックによる経済の停滞を防ぎ、将来のパンデミックへの予防・備え・対応に貢献するもの。

グローバルファンド【165.4億円】

- 途上国の感染症対策(三大感染症であるエイズ、結核及びマラリア)の強化により、新型コロナを含む感染症に対する強靱性を高め、我が国への感染症流入のリスクを軽減するとともに、途上国のパンデミックへの対応能力強化を図り、経済活動の再開・強化を下支えするもの。

UNDP及びGHITの連携事業【15.7億円】

- UNDP及びGHITへの拠出を通じて、顧みられない熱帯病(NTDs)、結核、マラリア、新興再興感染症(Need)等の対策のため、国内企業等による必要な医薬品の研究開発及び供給を促進し、国際的な感染症対策に貢献するもの。

UHC2030【2億円】

- UHC2030への拠出を通じて、G7広島サミットや国連総会UHCハイレベル会合の成果のフォローアップにあたり、我が国が主導した形でのポスト・コロナのUHCの打ち出しや、保健分野全体での取組のより一層の具現化につながるもの。

ユニットエイド【10億円】

- ユニットエイドへの拠出を通じて、アフリカにおける新型コロナを含む呼吸器系疾患や肺炎等の重篤患者の救急救命措置として、喫緊に必要な医療用酸素の現地生産を支援するもの。

●グローバルファンド拠出金【165億円】

2023年～2025年の第7次増資において、グローバルファンドは将来のパンデミックへの備えとしての保健システム強化を重点の一部として掲げ、増資目標の3分の1を割り当てることから、将来のパンデミック対応等への活用を目的としたグローバルファンドの保健システム強化に拠出を行い、各国の保健制度の強化を図っていくことで、我が国への感染症流入防止を図る。

●感染症流行対策イノベーション連合(CEPI)拠出金【74億円】

G7広島サミットにおいて、イノベーションを促進し、感染症危機対応医薬品等(MCM)の研究開発を強化することが緊急に必要であることが改めて確認された。CEPI(Coalition for Epidemic Preparedness Innovations)への拠出を通じて、CEPIが実施する平時には需要の少ないエボラ出血熱のような世界規模の流行を生じる恐れのある感染症に対するワクチン開発、新型コロナウイルスに対するワクチン開発の知見を活かした迅速なワクチン開発を行うことを目指す技術革新や、すべてのベータコロナウイルス属に対応できるワクチン開発等を促進する。

●Gaviワクチンアライアンス拠出金【27億円】

G7広島サミットにおいて、将来のパンデミックに備えるために、「製造及びデリバリーに関する課題に対応することを通じたものを含め、感染症危機対応医薬品等(MCM)への公平なアクセスを強化すること」が確認された。MCMの中でも、パンデミックへの備えとして重要な位置づけを占めるワクチンについて、Gaviワクチン・アライアンスへの拠出により、低所得国へ予防接種の促進やワクチン調達・配送網等の保健システム強化支援等を行う。

●感染症対策に係る国際的な医薬品研究開発等支援事業(GHIT)【27億円】

開発途上国を中心に蔓延するNTDs等における治療薬等の研究開発は、先進国において需要が少ない等の理由から充分になされていない。日本の優れた医薬品研究開発力を活かし、官民連携の公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)を通じて、NTDs等の開発途上国向けの医薬品等の研究開発と供給支援を更に促進する。